



H

ostelling

Magazine

巻頭インタビュー

「日本がいちばん」っていつも思う。

でも、それを分かるためにも

世界に出てみる必要があるんだよ。

タレント ボビー・オロゴン

Hostelling Magazine × 地球の歩き方

太陽ふりそそぐ地中海に浮かぶ

青い海の楽園アイランド! *Malta*

📍トリップアドバイザー®

マルタおすすめスポット 口コミ情報局

viator

いちおしツアーNAVI マルタ編

Youth Hostel Pick up

心の故郷に帰ってきたような
能登の優しさを体感。

能登漁火ユースホステル

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。





www.yamazakipan.co.jp

LUNCH PACK A GO! GO!



ランチパック



マルタ料理レストラン 日本初オープン!

Maltaの香りを 東京で



Image by Clive Vella

現地のマンマから学んだ秘伝のレシピに
マルタワイン、CISK、Kinnieもご用意しています。



フティーラピッツァ
¥1,000



スチームリゾット
¥1,000



国産牛のブラジオリ
¥1,500

スチームレストラン **マルタ**

〒115-0004 東京都港区新橋 2-9-17-2F
tel. 080-4378-9211 (高宮)
Facebook. Takashi Takamiya

First Drink Service



本誌をお持ちの方にディナータイムのファーストドリンクをサービスいたします!(アルコール・ソフトドリンクは問いません!)
※ディナータイムに限る。2016年9月20日まで

malta 
steam restaurant



HOSTELLING
INTERNATIONAL

Vision

Principle and Philosophy

Inclusivity

世界を超えて

Learning and Understanding

考えよう

Sustainability

僕らと子ども達の未来のことを

日本ユースホステル協会はユースホステルのビジョンに基づき、日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

Line up

インタビュー P02
 タレント/ボビー・オロゴン
 「日本がいちばん」っていつも思う。
 でも、それを分かるためにも
 世界に出てみる必要があるんだよ。

Youth Hostel Pick up P08
 心の故郷に帰ってきたような
 能登の優しさを体感。
 能登漁火ユースホステル

Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P12
 太陽ふりそそぐ地中海に浮かぶ
 青い海の楽園アイランド!
 マルタ

■マルタを楽しむための4 TOPICS

トリップアドバイザー P16
 マルタおすすめスポット 口コミ情報局

Viator P17
 いちおしツアーNAVI マルタ編

Hostelling Magazine × Expedia P18
 SPECIAL INTERVIEW

gtg P20

教えて! 旅GIRL P21

Event Information P22

※本紙の情報は2016年6月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。
 発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会
 編集・発行人 水野 幸
 TEL.(03)5738-0546
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
 国立オリンピック記念青少年総合センター内
 ※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。
 制作・印刷製本/サンメッセ株式会社

「日本がいちばん」っていつも思う。
でも、それを分かるためにも
世界に出てみる必要があるんだよ。

タレント ボビー・オロゴン

世界は良いものばかりで出来てるわけじゃない。
だからこそ、行ってみるべきなんだ。
日常を当たり前ものと思わずに、常に「感謝」を感じられるように——
話を聴くほどに、日本への愛、人間への優しいまなざし、
世界への開かれた感性、そして家族への愛情の深さに心を打たれ、
どこか昔懐かしい日本男児と話しているような気さえてくる。
Hostelling Magazine今回の巻頭インタビューは、
マルチタレント ボビー・オロゴンさんをお招きし、
たっぷりとお話を伺いました。

**34人兄弟で、
毎日のごはんもサバイバル。
だから、1/34の生き方は、
したくなかったんだ。**

Q. ボビーさんはナイジェリアのご出身で、
ご兄弟が34人! 大家族ですね!

想像できないって?(笑)。34人全員でいっぺんにごはんを食べる時はさ、もう、生きるか死ぬかのサバイバル。ちょっと横とか見てたら、お皿にはな〜んもない(笑)。でもそれは、悪いことばかりじゃない。人間というのは、闘って、競争して生きていくんだから。子どもの時にそういう生存競争をおぼえるのは大事でしょ!?

Q. 生存競争(笑)。大事なことですよね。
一家を支えるお父様はどんな方なのでしょう?

お父さんは貿易の仕事をしていて、世界を飛び回ってた。オレは小さい頃から、きびしくされたよ。たとえばさ、10歳にもならないくらいの時、お父さんの事務所で手伝いをさせられるわけ。「何するの?」って聞くと、「お金を数えなさい」って。一枚一枚必死で数える。当然、こづかいももらえないと思うじゃない?でも何もなし。「お金数えるのだけでも、大変だろ?これを稼ぐの、どんだけ大変か、少し分かったか」ってお父さんは言うの。初めは「げー、まじでこづかいなしかよ!」と思ったけどね。今は、いいしつけだったと思ってる。

Q. 面白い教育法ですね。
ナイジェリアでは学校とか、
勉強の環境もずいぶん違うんですか?

そりゃあ、もう比べものにならないでしょ!だって、オレの通ってた小学校の屋根、5回も嵐で飛ばされたよ?そしたら、どうするって、木の下で勉強するしかないわけ。暑さハンパじゃないよ、アフリカだし(笑)。それにインフラも。ついこのあいだナイジェリアに帰った時だって、1日に何時間停電したと思う?16時間だよ!この21世紀の現代社会で。日本の子どもが、恵まれてるのは間違いないよ。でも、日本の子どもは、他の国と比べたりしないから、恵まれてることが分からない。それも、可哀想だね。当たり前と思っちゃってるから。お父さんお母さん、お役所も頑張ってること、素晴らしいと思わないし、思えない。知らないから、ナイジェリアとかのことを。

Q. お父様の事業を継ごうとは思ってませんでしたか?

34人も兄弟がいるから。「オレはいいんじゃないの?」って。想像つく生き方、1/34の生き方は、したくなかった。お父さんも、仕事で海外に出かけて、戻ってきたら、おみやげ話いっぱいするからさ。日本のいい話を、お父さんから聞いていたの、たくさん。子どもはさ、そういう話にワクワクするじゃん。電車がびったり時間通りにくるなんて、「どうすればそんなことできるんだ!すっげーっ!!」って。

**みじめなことも、今じゃ笑い話になる。
ジュースの自販機で、
お釣りをずーっと待ってて。
雨の中で1時間立ちつくしたことも。**

Q. 日本に住むことになったきっかけとして、
パチンコのエピソードをテレビなどで
紹介されていましたが、あれは本当の話ですか?

それ聞く?(笑)いやあ、若気の至り?ってやつ。お父さんから、日本での買い付けとかのためになって、大金渡されて。で、ある人に言われたわけ。「この“パチンコ”というゲームは、すぐにお金が2倍、3倍になるよ」って。んなわけないって今なら分かるけど、20年くらい前のオレは、信じやすかったんだね。アフリカからのおのぼりさん(笑)。で「いいこと教わった!」と思って、アパートもパチンコ屋さんのすぐそばにしたの。「お父さんのお金を倍にしよう!」って。結果はみんな分かる通り。ぜーんぶパー。目の前まっくらなんてもんじゃないよ!(笑)。当然、ナイジェリアに帰れるわけもなく。ヤバすぎるでしょ?うわーっ、どーすんだよって(笑)。



貿易業を営む父親(右)の事務所で。ここで6歳の頃から、經理の手伝いをはじめ、仕事や生き方に対して、厳しくしつけられた。ボビーさんにとって、いわば“第二の学校”。

Q. 慣れない海外でそんな状況になったら、
途方に暮れてしまいますよね…。

でもどうしようもないからさ、生きのびるしか。一カ月の生活費を三千元にして。そうすると一日百円しかないわけ。どうすると思う？そういう時はアメ横に行くの。夕方くらいが狙い目。みんなお店の人は早く売って店閉めたいから、さかな屋のにいちゃんに、「安くして！」って言って、安くさかな買うでしょ。で、小麦粉にトマト買うでしょ。それで、ナイジェリアの料理を山ほど作って、作り置きして、一週間毎日それを食べてた。その頃は体重70キロくらい、ガリガリだったよ。

Q. 大変な生活を送っていたんですね…。
日本に慣れないころ、
他にも困ったことはありましたか？

あつたに決まってるじゃん(笑)。とにかく、お金を節約してた時、どうしてもジュースが飲みたくなくて、自動販売機に千円札を入れたの。ボタンを押して、ジュースは出てきたけど、お釣りが全然出てこないわけ！考えてみろよ、一か月三千元で暮らしてんだから。千円のお釣りがないと、大変だよ(笑)。じっと待ってたら、雨まで降ってきて、泣きつづらにアメ！(笑)ナイジェリアには、自動販売機なんてありえないからさ。お釣りのレバーなんて、知らないちゅーの！でも、そういうみじめな想いをしてもさ、やってみるのが大事よ。やるかやらないか、迷ったらやる。だから、オレは迷わないんだよ。決断とか、すぐする。やらないで後悔するなんて、何にも、経験も残らないでしょ。意味ないよ。

**日本語は、ストリートで覚えたの。
「ありがとう」「わたし」「おまえ」
その3つで、たいていのことは
何とかなった。**

Q. それにしても、日本語が堪能ですね！
どこで勉強したんですか？

冗談やめてよ！(笑)ほんと、ストリートで覚えたもんで。ひどいまま来ちゃって。最初は3つのコトバしか知らなかった。「ありがとう」「わたし」「おまえ」の3つ。だけどさ、自分と相手と感謝の言葉があれば、たいていは何とかなるんだよ。コミュニケーションは気持ちでしょ。「おまえ」に“いま”、伝えたい。“ありがとう”って。いいじゃん、それで。ペラペラどうしてケンカしてるより。

Q. 愛妻家として知られるボビーさんですが、
日本人の奥様とのなれそめをお聞きしてもいいですか？

奥さんとのなれそめかよー(笑)。BARで、声をかけたんだけどね。あのさ、知ってる？どこの国に行っても使える、口説き文句があるんだよ(笑)『どこかで会いましたっけ？』『あなたキレイですね』みんな、えーって笑うけど、意外とけっこう使えるよ？

奥さんはね、別の人たちとグループで来てたの。男の友達も一緒に、何人かで。で、オレもそこに飲みに行ってる。あ、キレイな人いるってすぐ思った。で、トイレにその女性が行くタイミングをずっと待ってたんだけど。きつと、ヘンな外人がソワソワ、ソワソワしてるって、バテたんだと思うなあ。まあ、どちらかと言えば、目立たないほうじゃないから(笑)、30分ぐらいソワソワ、モジモジしてて、やっと彼女がトイレに立ったタイミングでついていったの。

で、笑いながら手を握って、「かわいいね」と言ったら、「サンキュー」って英語で返してくれた。「いきなりかよ」って自分でも思うけどね。それから、「一杯おごるよ」って、英語で言って。「友だちになってください」って。それから、電話番号を聞き出すのがまた大変で。「教えてください」「ダメ」「教えてください」「ダメ」(笑)。

でさ、やっと教えてもらったのはいいけど。すっごくフシギなこと言われて、びっくり。なんて言ったと思う？「教えるけど、電話してこないでね」だよ！どういうこと？「日本語ってやっぱり難しいなあ」と思ったな。気持ちと表現がだいぶちがうのも、まだ分からなかったし。しかもさ、まだ携帯電話とかって全然ない時代なのよ。家族、お父さん、お母さん、誰が出るか分からないから、かけちゃダメって。

それから、悩んだな。日本に来てロングゲストな72時間。いちばん長い時間だったけど、もうがまんできなくなって、かけちゃった。もう、心臓バクバク。そしたら、すぐ彼女出てくれて。なんだよ、待ってたのかよって(笑)。嬉しかったよ、すごく。

Q. その後奥様との間にお子様たちが誕生して、
仲の良いご家族の様子をテレビでもお見かけします。

上が女の子で、オーストラリアに留学中なんだけど、こっちはほんと「抑えて、抑えて」ばかり。もう、ハラハラするくらいアクティブで、じゃじゃ馬だからさ。女の子なのとにかく困っちゃうんだ(笑)。

下の男の子には、「誰に何を言われても気にすんな。人の目を気にしないで、自分の道を大事にしなさい」って言ってる。やっぱり、男はさ、自分の信じてる道を強く持って、自分で進まないといけないでしょ。人目ばつかにしてて、何ができるの？

Q. 素敵なパパですね!お仕事ではとにかく
マルチに活躍されている印象がありますが、
タレント、格闘家、作家、映画監督、実業家と、
いろいろな肩書きを持つボビーさん。“ご職業は?”と
尋ねられたら、今は何とお答えになっていますか?

それを聞かれんのが、いちばん困るのよ(笑)。ずっと昔から、いろ
んなものにチャレンジしたくて。オールマイティな男になりたかつ
たから。いろんなことやってきて、分かれ道もあって。偶然とかさ。
格闘技だって、そんなのやる予定なかったよ。番組でたまた
まやることになっちゃったから。それで、身体を作っていた
わけよ。そりゃ、しょうがないよ。お金ないし、生きるか死ぬ
か。必死でしょ。その時は闘うのが、生きることだったから。
で、やってるうちにどんどん本格的になってって、もう、最後
はK-1の世界チャンピオンクラスが相手でしょ。ちょっと前ま
で素人だったんだよ?そりゃあ、怖いよ。死んじゃうかもしれ
ない。だけど、やるしかなかったんだ。かつこよくなかつたって、
そんなの関係ないよ。ほんと、こっちは必死なんだしね。
今は、ナレーションしたり、エッセイを書いたりもしてるし、そ
んな風にいろんなチャレンジは続けたいと思うんだ。人間
であれば、ひとつの事に縛られなくていいのでは、と思うで
しょ?インターナショナルもそう。いろんな事に挑戦して、“い
い”も“ダメ”もあって、そういう経験をいつか孫に話したいん
だ。おじいちゃんのじまん話(笑)。

すっごい感動を受けたのは、ブルンジ。
小さくて、なあんもない、
貧しい国だけだね。みんな幸せに
暮らしてるのが顔に出てるんだ。

Q. ナレーションのお仕事といえば、
「YOUは何しに日本へ?」という
話題のバラエティ番組を担当されていますね。

ああ、アレいいよねー。感動するでしょう?いろんな人がびつ
くりする理由で日本に来てて、毎回原稿読むだけでも、まじめに
感動しちゃうんだ。ちょっとした好奇心みたいなものをきつ
かけに、地球の裏側からはるばる日本までやってきて、ドラマが
あるでしょ。自分が日本に来た若い時のこと、思い出すんだよ。
結局、オレがずっとしてきたことも同じ。40歳を過ぎた時に
思ったの。「もう40を越えたら、できることも限られるだろう
から、したいこと全部しないと!」って。でも50歳を過ぎた時
もおんなじことを思うと思う。だからオレは、ずっと死ぬまで
チャレンジャーじゃないの?(笑)



ナイジェリアの母校に寄付をしたときの、子どもたちの歓迎の様子。日本で成功をおさめたボビーさんは、みんなの憧れの的。

最愛の家族と、マレーシアに家族旅行した際の記念写真。インタビューにも登場する、オーストラリア留学中の長女、中学生の長男はじめ、愛してやまない4人の子どもたちと。

Profile

ボビー・オロゴン

1973年4月8日ナイジェリア連邦共和国・イバダン出身。貿易会社を経営する父親のもと、34人兄弟の3番目として生まれる。国立大学経済学部卒業後、父親の仕事を手伝い、世界各国を回る。2001年、日本のテレビ番組の街頭インタビューをきっかけにプロデューサーの目に留まり、またたく間にバラエティ番組の人気キャラクターとしてレギュラー出演するようになる。その後、格闘家としても活躍。2007年、日本国籍を取得。2013年には自身が監督・制作・脚本・出演を務めた自伝的映画『MOON★DREAM』を発表するなど、マルチな才能を發揮している。



子どもたちの声は
“未来からの声”、
“希望の声”。
宝物と思わなきや損でしょ。

スタイリスト:大口アキラ (officeA)

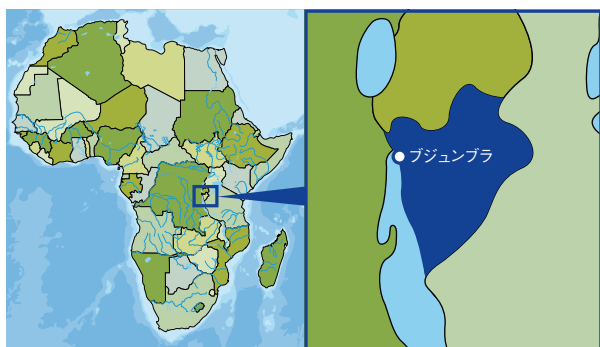
Q. ご自身も世界の国々を旅されていますが、最近行った国で特に印象に残った所はありましたか？

日本の人は、知らないと思うけど、アフリカにブルンジって国があってね。小さな小さな貧しい国で、最近まで内戦が続いてたから、行く前は大丈夫なのかな、と思ったんだよ。でも実際に行ってみたら、びっくり!みーんな、その国の人たちがどんだけ幸せに暮らしてるか、ぜーんぶ顔に出てた!!景色も素晴らしいよ。「命の湖」って呼ばれてる湖がひとつあるだけだから、そこにみんなが水浴びに集まるわけ。人も動物たちも。考えられる?湖のちょっと離れた岸にはワニやカバも泳いでんのかな?時々咬まれて死んじゃう人もいるけど、みんな平気な顔で水浴びしてんだよ。これ、まじでおとぎ話の国だろ!って(笑)。周りが山に囲まれてて、のどかに生活してるの。足りないものに捉われないで、楽しくね。

オレたちも、キミたちも、世界のひとつ。
だったら、若いときから世界を見た方が、
絶対いいに決まってるじゃん。

Q. いろいろな国のいろいろな価値観を見てこられたボビーさんが、日本に永住することを決めた理由は何なのでしょう? そんな日本に“あえて”言いたいことはありますか?

日本はね、ずっとオレの中で“いちばん”。安全とか、人間のよさとかももちろんだけど、なんだろう…ナイジェリアの人と似てる所もある。“お年寄りを敬う”とか、“自然を大切に思う”とか。メンタリティが近い感じがする。日本人に言いたいのは、



 **ブルンジ共和国** *Republic of Burundi*

人口	1,020万人(2013年、UNFPA)
首都	ブジュンブラ (Bujumbura)
言語	仏語(公用語)、キルンジ語(公用語)
主要産業	農業(コーヒー、茶等)

ほら、よく電車でもお店でも、小さい子が大声で泣きわめいていると、嫌な顔するじゃん。睨んだりとか。あれは違うと思う。子どもたちの声は、“未来からの声”。“希望の声”なんだ。親にとってだけじゃなく、みんなにとって。宝物だと思って、有り難いと思わなきゃ、損だと思う。だって、国も、人間も、未来はこの子どもたちが頑張ってくれないと、どうにもならないでしょ？若い人もおんなじ。オレたちも、キミたちも、世界のひとつ。みんなで世界を作ってるんだよ。だったら、若いときから、世界を見た方が、絶対いいに決まってるじゃん。そうすると、自分が世界とどう関係してて、どうやって関わっていくのか、考えられるようになるはずなんだ。どんどん出かけてみて、いっぱい自分の目で見て、悩んだりして。そういう時間が、本当に大切だと思うな。

Q. 若い人は海外に出ていくことを

ためらう傾向にあるとされています。

最後にボビーさんからメッセージをお願いします。

海外には危ない、怖いところがある。注意しないとキケン。どれもぜんぶ正解だよ。本当にその通りだと思う。だけども、この世界は、良いものばかりで出来てるわけじゃないでしょ？ニュースを見たって、すぐわかるでしょ。良いものと悪いもの、どっちも世界を作っている現実なんだからさ。それを自分で見ないで怖がってたなら、世界に目をつぶってることと変わらないよ。

それに、良い悪いって、そんなに単純なことじゃない場合もあるんだよ？ナイジェリアのインフラがひどいって話したけど、それが全部悪いかって言えば違う。電気のない夜の良さだってあるじゃん。星がきれい、月がきれい、8時には眠くなるから、とっても健康的。もう暗いから寝るしかない！って。(笑) だから、若い人には、もっともっと世界を見なさい。もっともっと旅に出なさい。オレはほんとそう言いたいと思ってる。

ボビーさんが
ナレーションを
担当する
バラエティ番組

Youは何しに日本へ?

Why did you come to Japan?



奇想天外な理由で
日本を訪れた外国人に
密着取材!?

テレビ東京
系列

毎週月曜
夜6:55~

ボビー・オロゴンさん著

『1週間の食費が300円だった僕が 200坪の別荘を買えた本当の理由』

抽選で3名様にプレゼント!

ご応募は日本ユースホステル協会
ホームページの専用お申込みフォームから!
<http://www.jyh.or.jp/hm/>

■応募締切 2016年9月末日

※なお、当選発表は、商品の発送を以て替えさせていただきます。



サイン
入り